

農産物直売所 運営のヒント①

食環境ジャーナリスト・食総合プロデューサー

金丸 弘美

繁盛店には共通項あり

最近の新しい直売所は、積極的に視察に出向いてノウハウを取り入れ、消費者も生産者にも支持されるものへと姿を変えてつある。集客も優れ、売り上げを伸ばしている直売所には共通項がある。

①野菜だけでなく、肉、魚、加工品など、日常に必要なものがそろっている②レシピがあり、食べ方が提案されている③加工品は地元のものでできるだけ使い、オリジナル性を出している④商品の流れと導線を考え、客単価が上がるように工夫をしている⑤食べる場（レストランやイートインなど）があり、売られている食材との連動性がある⑥売れ筋の動向をPOS活用で調査し、売れる時間帯を把握して、途切れないように商品を置いている⑦消費者が求めるもので地域にない野菜は栽培している⑧ウインナーづくり、大福づくりなど販売する商品に関連した体験教室を開き、幅広いファンを獲得している⑨宅配にも対応している⑩女性の視点を入れた売り場、商品などを

消費者にも農家の所得向上にも気配り

作っている――などが挙げられる。生産者に対してもできるだけ収益に結びつく工夫がされている。周辺の客層や人口動態を調査しているところもある。その上で、①適正価格で所得を上げる②売れ筋情報を出し、ニーズに合ったものを出荷する③周辺の客層や来店のデータを出し、売り場の傾向を把握している④POSを利用し、スマートフォンに売り上げ情報を流し、同時に売れる時間帯を調査してニーズに合った時間に販売する⑤生産部会を設けて、よく売れる野菜や求められる商品、栽培法などの情報交換会をしている――などが挙げられる。

また、安全・安心を確保するため栽培歴の提出、農業残留検査を定期的に行うなど、品質を高める傾向にある。周辺の観光施設、学校給食、ホテル、レストランなどに出荷しているところもあり、大きな売り上げにつながっている。全体のマネジメントを考えている直売所は、売り上げ、客単価、集客を伸ばすだけでなく、農家の所得の向上につながっている。

◇農産物直売所の運営ノウハウを連載で紹介。次回は5月18日付

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

2018年(平成30年)

4月20日 金曜日
月4回金曜日発行

農地を活かし 担い手を応援する
農業委員会ネットワーク機構

発行所 全国農業会議所

〒102-0084 東京都千代田区二番町9の8
中央労働基準協会ビル ☎03-6910-1130
©全国農業会議所2018

ホームページ<https://www.nca.or.jp/shinbun>

お申し込みは、お近くの農業委員会へどうぞ